

平成24年7月10日

平成24年11月期第2四半期
(平成23年12月1日～平成24年5月31日)

ニッケグループ決算説明資料

連結業績は、売上高49,270百万円（前年同期比17.1%増）、営業利益2,629百万円（同2.5%増）、経常利益2,765百万円（同5.3%増）、四半期純利益1,859百万円（同45.2%増）となり**増収増益決算**となりました。



“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、
わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”

<http://www.nikke.co.jp>



目次-Contents-

1. ニッケグループの経営理念・経営方針について
2. ニッケグループの事業の概要について
3. 主要なグループ会社について
4. 連結業績の概要について
5. セグメント別業績の概要について
6. ~11. 各セグメントの概要について
12. セグメント別売上げ割合の推移
13. 連結B/S 連結C/F
14. 自己資本比率・ROA・ROEの推移
15. 設備投資・減価償却費の推移
16. 連結有利子負債の推移
17. 連結業績予想
18. セグメント別業績予想
19. ~21. この半期のトピックス
22. NN120ビジョンの達成に向けて
23. 株主還元方針
24. 過去20年の配当額の推移
25. ニッケの魅力と強みについて

1. ニッケグループの経営理念・経営方針について

経営理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”

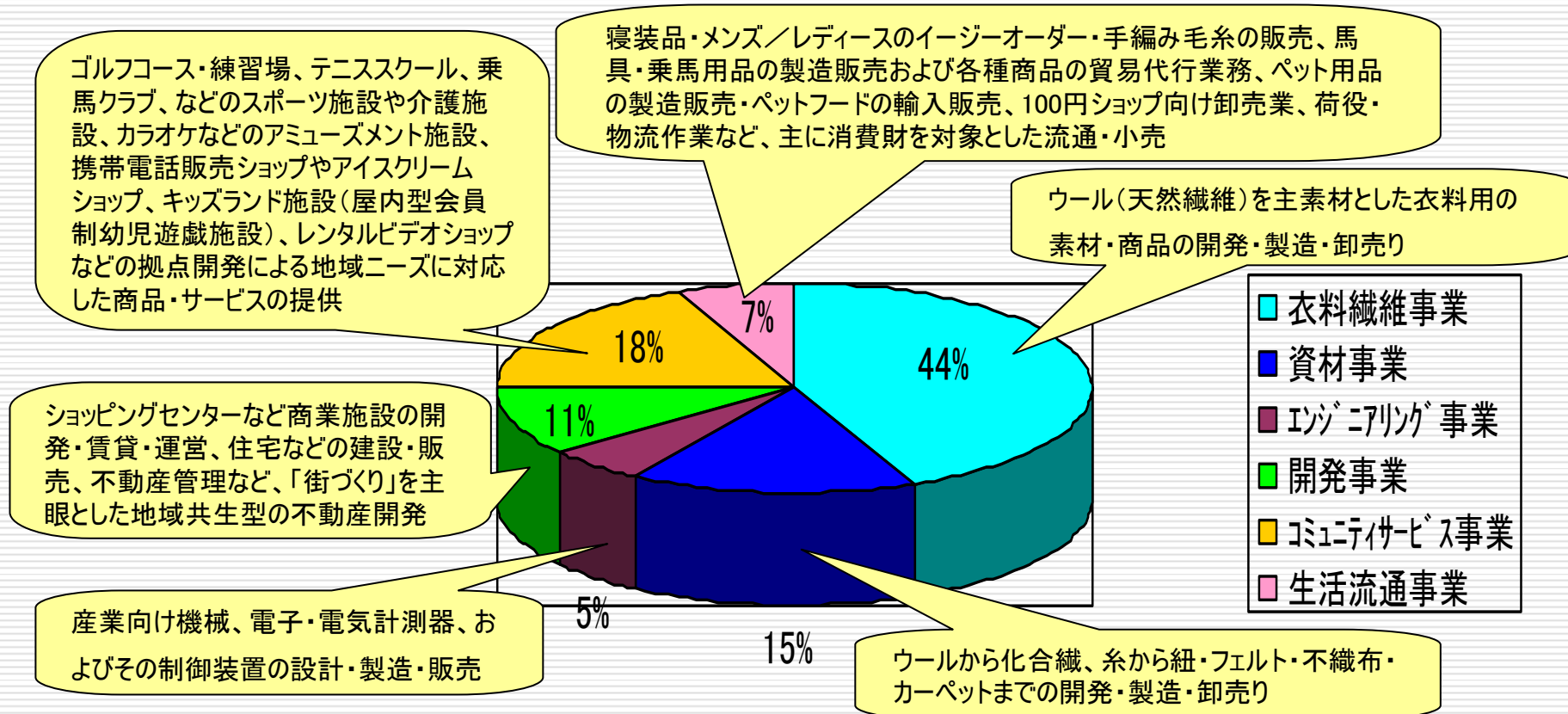
- ウールで培った技術の追求と環境への配慮により、新しい価値を創造します。
- 心を込めて人間家族や地域社会に貢献し、たしかな生活文化を創造します。

経営方針

- 社員の幸せを追求し、希望と生きがいの持てる企業グループを目指します。
- 企業価値の最大化を通して、顧客や株主との永続的な信頼関係を築きます。
- 研究開発を強化し、品質と感性・革新性に根ざしたNo.1の商品とサービスを提供します。
- 変化をチャンスと捉え、既存事業の改革と新規事業の開拓に挑戦します。
- 人材開発を重視し、各分野におけるプロフェッショナルとして行動します。

- 起業の原点であるウールの持つ「やさしく、あったかい」をニッケグループの企業イメージとして捉え、人々にもものとの心の豊かさを提供し、地球環境と調和することを経営理念と致します。
- 「繊維」「非繊維」の意識を撤廃し、ニッケグループを共通の経営理念・経営方針で統一された事業複合体と考え、さまざまな分野でお客様に満足頂ける商品やサービスを提供して参ります。
- 経営理念に裏打ちされた事業の成長を通じて、企業価値を持続的に高めて参ります。このために、グループ社員の一人ひとりが主役となって、情熱と誇りを持ち、夢を実現できる企業風土を具現化して行きます。

2. ニッケグループの事業の概要について



3. 主要なグループ会社について

●衣料繊維事業●

(株)ナカヒロ（大阪府中央区）、アカツキ商事(株)（東京都墨田区）、佐藤産業(株)（東京都千代田区）、大成毛織(株)（愛知県一宮市）、(株)中日毛織（愛知県一宮市）、尾州ウール(株)（愛知県一宮市）、青島日毛織物有限公司（中国山東省）、江陰日毛紡績有限公司（中国江蘇省） 他

●資材事業●

アンビック(株)（兵庫県姫路市）、(株)ゴーセン（大阪府中央区）

●エンジニアリング事業●

(株)ニッケ機械製作所（兵庫県加古川市）、(株)ニッケテクノシステム（東京都町田市）

●開発事業●

ニッケ不動産(株)（神戸府中央区）

●コミュニティサービス事業●

(株)ニッケ・ケアサービス（兵庫県加古川市）、(株)ニッケレジャーサービス（愛知県弥富市）、ニッケアウデオSAD(株)（神戸府中央区）、(株)ニッケインドアテニス（愛知県あま市）、(株)ジーシーシー（大阪府中央区） 他

●生活流通事業●

ニッケ商事(株)（大阪府中央区）、双洋貿易(株)（神戸府東灘区）、(株)ニッケ物流(株)（愛知県一宮市）、(株)友栄（大阪府枚方市） 他

Ⅰ. 平成24年11月期第2四半期実績

4. 連結業績の概要について

エンジニアリング、コミュニティサービス、生活流通の好調により増収増益決算

	売上高	営業利益	経常利益	純利益
H23第2四半期	百万円 42,068	百万円 2,566	百万円 2,625	百万円 1,280
H24第2四半期	百万円 49,270	百万円 2,629	百万円 2,765	百万円 1,859
売上高利益率	—	5.3%	5.6%	—
前年同期比	+17.1%	+2.5%	+5.3%	+45.2%
通期予想	百万円 96,000	百万円 5,500	百万円 5,400	百万円 3,000
通期予想に対する進捗率	51.3%	47.8%	51.2%	62.0%

売上高は、自動車向け関連において好調であったエンジニアリング事業、介護事業やレンタルビデオショップの新規拡大が奏功したコミュニティサービス事業、災害用毛布の特需が寄与した生活流通事業が牽引し増収となった。

利益面については、原料高騰の影響により衣料繊維事業、資材事業が減益となったが、コミュニティサービス事業、生活流通事業、エンジニアリング事業の増収が寄与し、増益となった

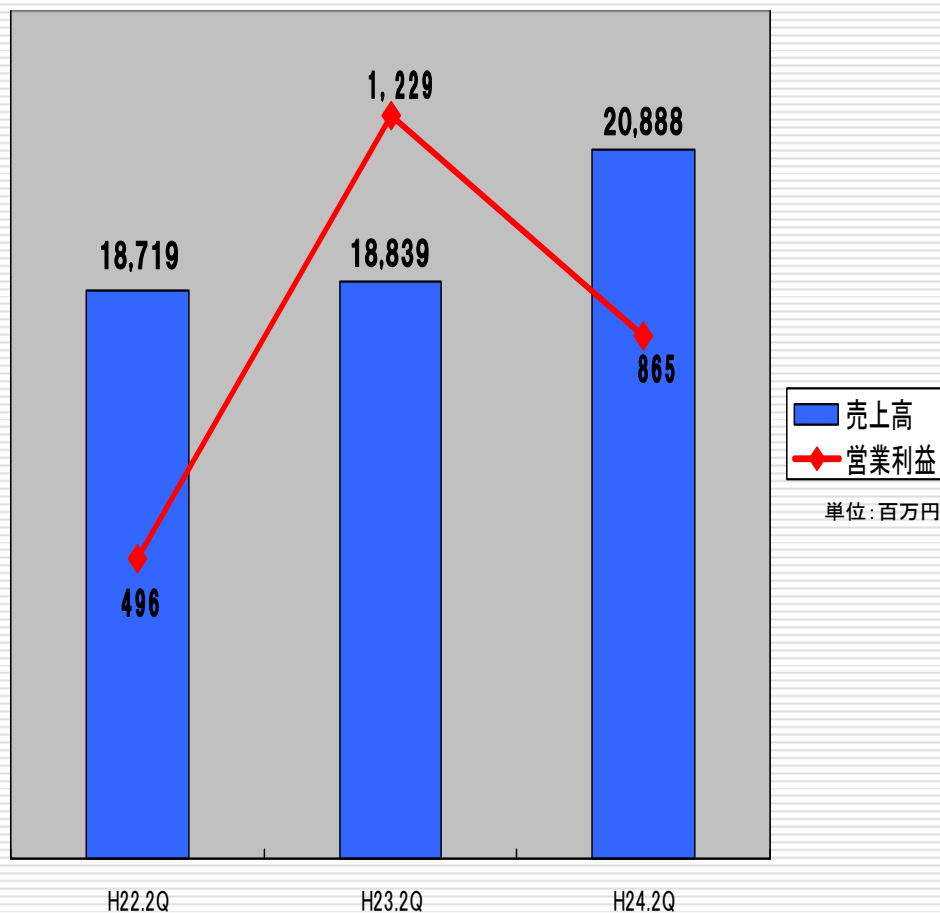
5. セグメント別業績の概要について

衣料繊維、資材が利益で苦戦もエンジニアリング、生活流通が回復基調に

	セグメント別売上高			セグメント別営業利益		
	売上高（百万円）	前年同期比	計画達成進捗	営業利益（百万円）	前年同期比	計画達成進捗
衣料繊維	20,888	10.9%	52.8%	865	-29.6%	32.0%
資材	6,992	4.1%	48.7%	140	-42.6%	25.5%
エンジニアリング	4,097	72.1%	61.4%	256	358.6%	151.5%
開発	5,214	12.9%	55.1%	1,650	-1.5%	55.0%
コミュニティサービス	9,780	22.0%	54.5%	280	48.9%	51.9%
生活流通	3,692	30.4%	67.3%	225	350.0%	252.8%

6. 衣料繊維事業の概況について

概況ダイジェスト



【売上げ】

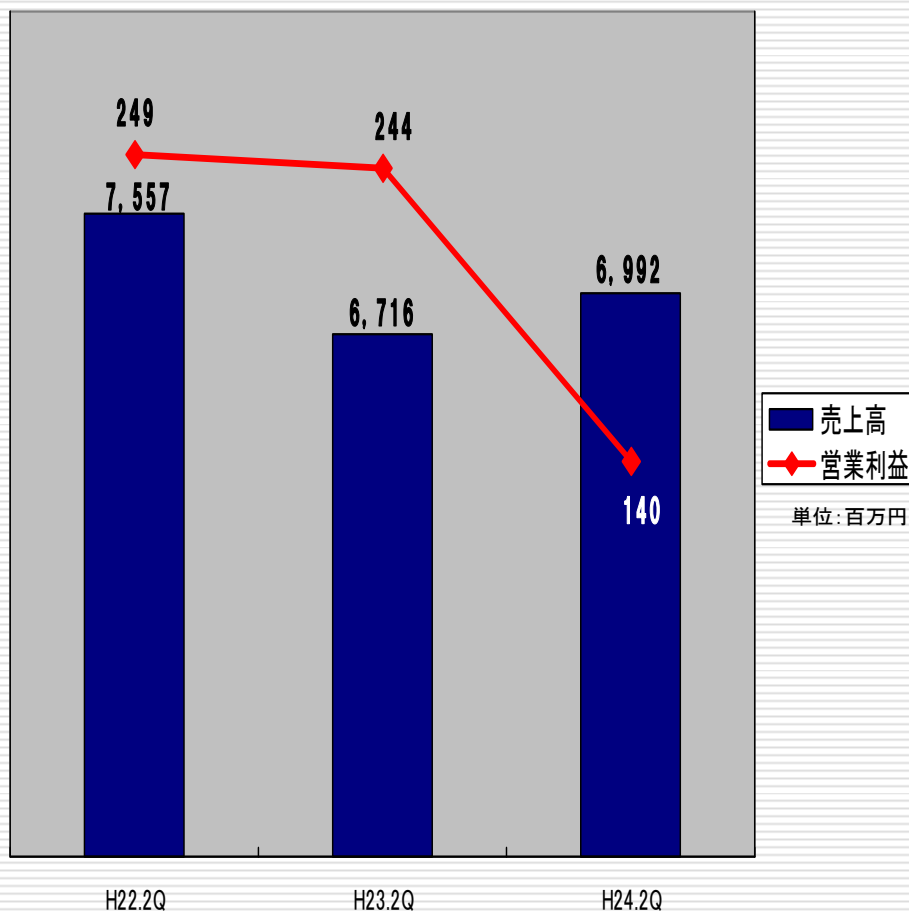
売糸は、販売数量の減少が続くも販売単価がこれを補い増収◆学校向け制服素材は、景況悪化の影響があるものの、流通段階の在庫調整が一巡したこともあって入学商戦向けおよび夏物の出荷も好調に推移し増収◆官公庁向け制服素材は、予算削減という厳しい環境の中で受注低迷が続いたが、官公庁の年度末に向けた受注が好調であったこと、さらに価格改定実施前のお荷も旺盛で増収◆企業向け制服素材は、通信、金融関係企業の大物件受注により増収◆一般衣料向け素材は、高品質、高性能商品の増加と原料高騰に伴う販売単価アップにより増収◆海外向け素材は、顧客との関係性がより深まった北米向け受注が順調に推移し、大幅増収

【利益】

昨年からの原毛価格上昇に伴う原価アップの影響が大きく、衣料繊維事業全体では大幅な減益



7. 資材事業の概況について



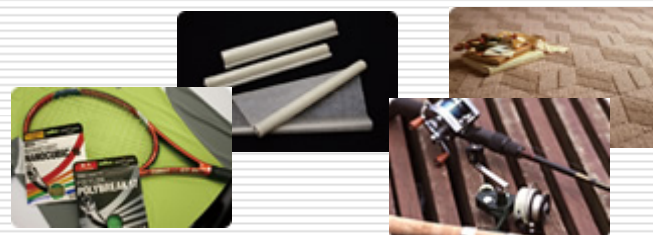
概況ダイジェスト

【売上げ】

産業用資材は、前期より楽器向けにおいて好調であったフェルトは、ここにきてやや軟調に。不織布はフィルター類、自動車向けが堅調に推移も、OA関連、液晶テレビ向けが軟調に推移。糸・紐は自動車関連の増産効果が大きく順調に推移し、結果、産業用資材全体では増収
 ◆カーペットは、家庭用途向けは概ね計画通り推移したが、業務用途向けは厳しい状況が続き減収
 ◆生活用資材のうち、ラケットスポーツ用品は前期後半からの緩やかな回復基調の中で特にガット関係が健闘し増収。釣糸は海外OEM生産が不振も新製品の健闘で国内販売が増収となり、結果、生活用資材全体では微増収。

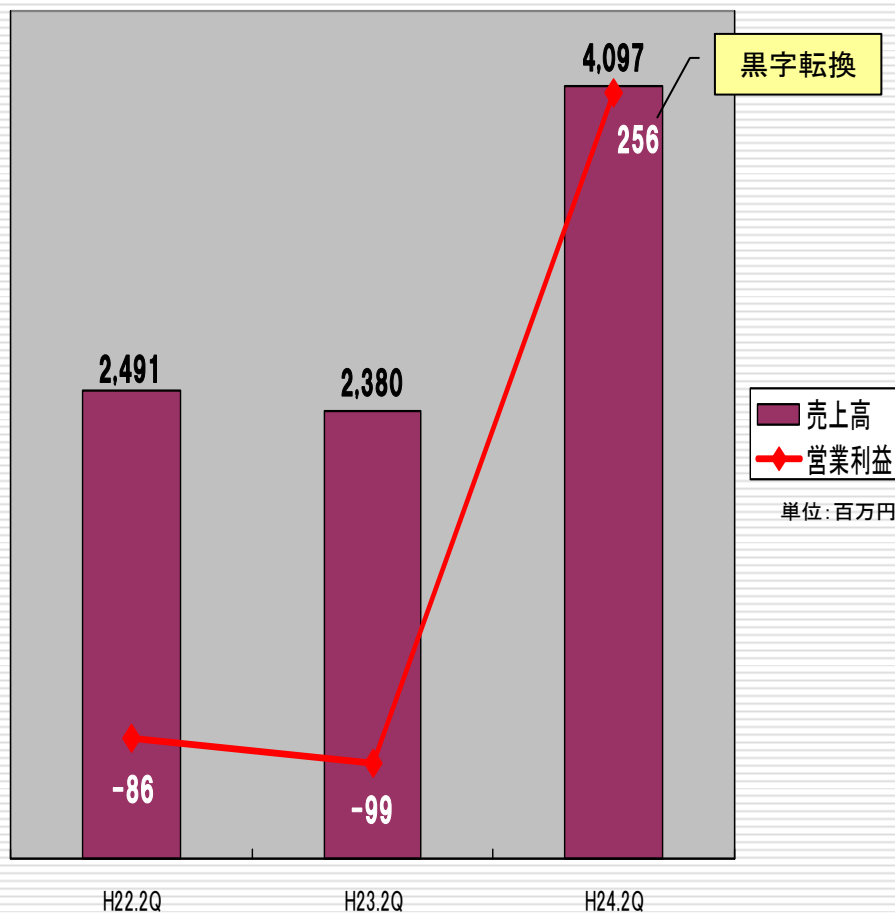
【利益】

産業用資材で原料費の高騰等によるコストアップ、カーペット関係の減収に伴う利益減により、資材事業全体では減益。



8. エンジニアリング事業の概況について

概況ダイジェスト



【売上げ】

産業向け機械は、全般的に前期より上向き基調で推移しており、特に車載品製造ライン関連の受注・売上が好調で大幅増収◆電源・計測器は、代理店との海外同行販促など積極的な営業活動を進めたが、家電メーカーなどからの受注が減少し減収◆画像検査機は、3次元検査機の売上げが伸びず前期並み

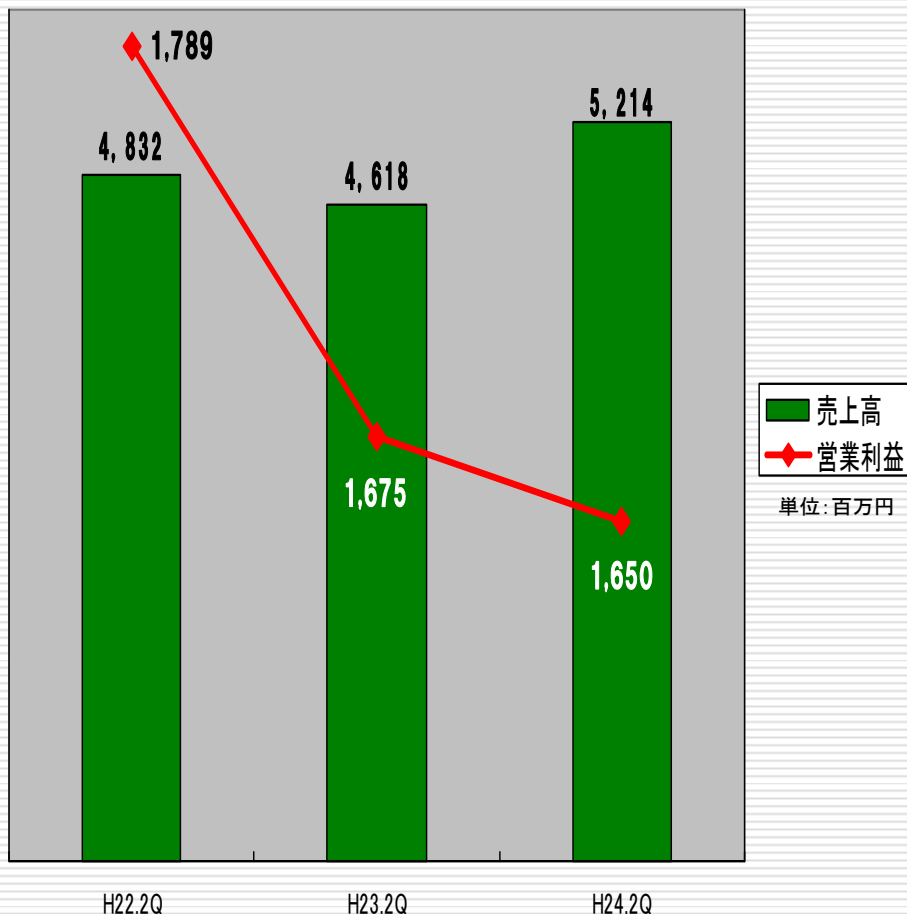
【利益】

産業向け機械の売上増および電源・計測器部門での人員削減、開発製造システム変更などの合理化施策が寄与したため、エンジニアリング事業全体では増益。



9. 開発事業の概況について

概況ダイジェスト



【売上げ】

商業施設運営事業は、前半は気候の影響で冬物衣料が全体を牽引し、後半は「ニッケコルトンプラザ」(千葉県市川市)が昨年の東日本大震災および計画停電の反動で、増収◆不動産事業は、賃貸部門ではテナント撤退および賃料引下げの影響を受けましたが、グループ会社が営む建設部門で大型工事の引き渡しがあり、大幅増収

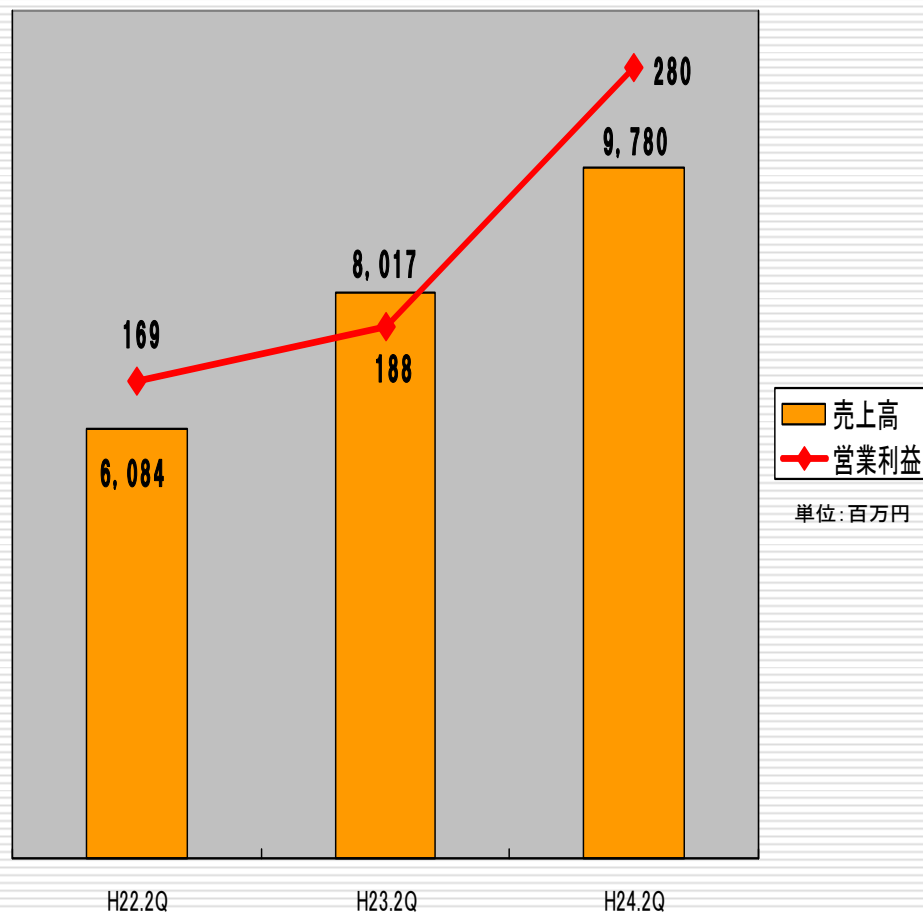
【利益】

商業施設運営事業において外注費や保険料削減、修繕費の繰越等により増益となりましたが、不動産事業において特に賃貸部門の減収と開発費用の先行投資等が影響し、開発事業全体では減益



10.コミュニティサービス事業の概況について

概況ダイジェスト



【売上げ】

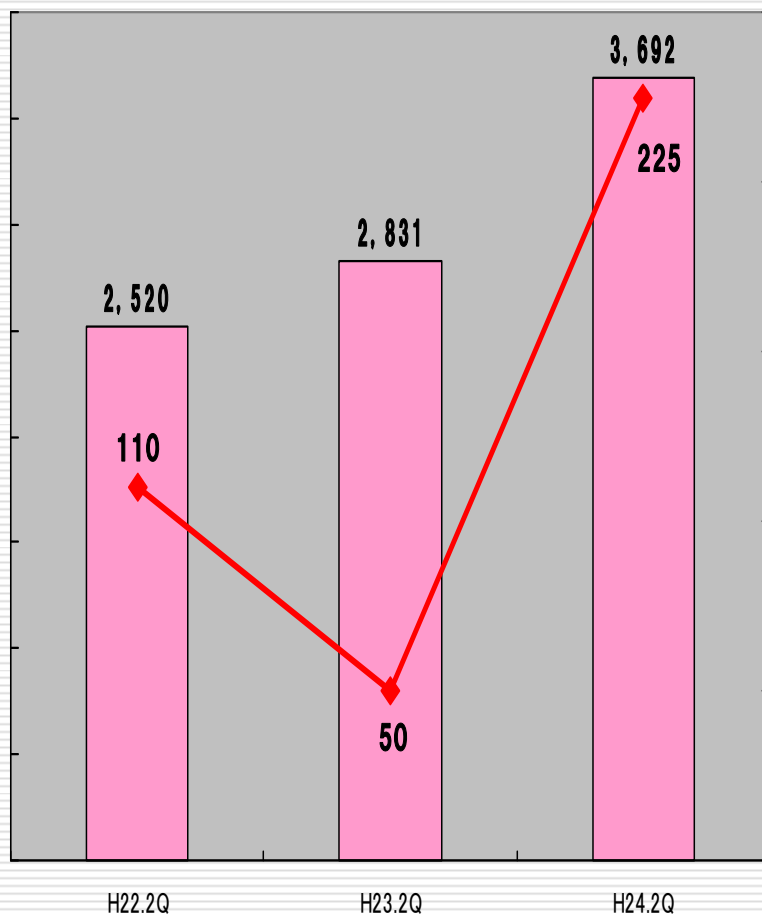
スポーツ事業は、インドアテニススクールにおいて一昨年に開校した「ニッケテニスドーム小豆沢」(東京都板橋区)の運営が軌道に乗り、また全期間で売上に寄与したことや、利用者・入場者数が増加したことにより増収◆介護事業は、デイサービス事業・小規模居宅介護事業ともに利用者が順調に伸びたことに加え、昨年5月に開所した認知症デイサービス「ニッケれんげの家」(愛知県一宮市)が売上げに寄与し増収◆アミューズメント事業は、個人消費の冷え込みが厳しいなか微増収◆携帯電話販売事業は、スマートフォン市場の急速な拡大と新規出店などから販売台数が伸びたことにより増収◆キッズランド事業は、昨年7月にオープンした「ニッケピュアハートキッズランド・アルパーク広島」(広島市西区)に加え、既存2施設も集客を伸ばしたことにより増収◆その他新規事業は、ビデオレンタル事業にて昨年12月に新たに7店舗が加わったことにより増収

【利益】

「ニッケテニスドーム小豆沢」の運営が軌道に乗り利益を上げていること、通信事業における積極的な店舗展開とスマートフォン市場の活性化による収益の増大などによりコミュニティサービス事業全体では増益。

11. 生活流通事業の概況について

概況ダイジェスト



【売上げ】

寝装品は企業で災害用毛布を備蓄する動きが進み大幅増収◆イージーオーダーは「アルファニッケ神戸店」の閉店により微減収◆手編毛糸は教室・講習会向け販売が低迷し減収◆馬具・乗馬用品は前期は震災のため売上が激減しており、その比較で増収◆社交ダンス用ドレスのレンタル・販売は3月からの新規事業で収益に寄与◆貿易代行業務は取引先からの注文が伸びず大幅減収◆ペット用品は事業撤退が決定したこともあり減収◆ペットフードは大手販売店の陳列棚の減少などの影響により減収◆100円ショップ向け卸売業は、前第3四半期からの新規事業であり収益に寄与。

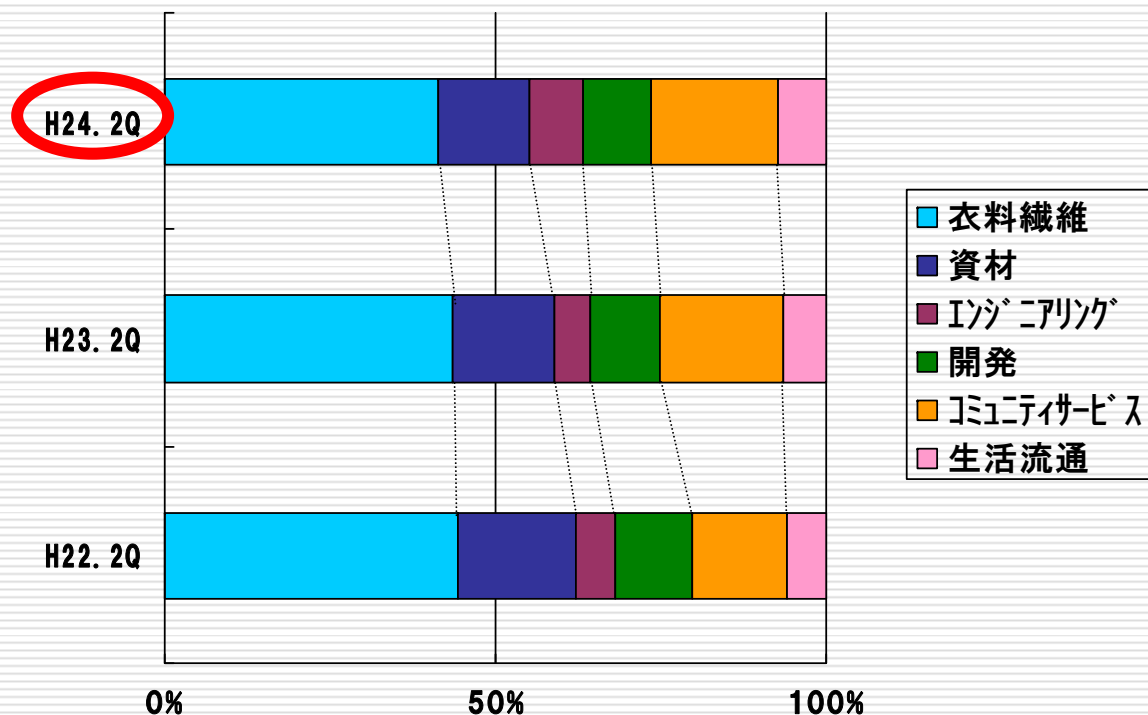
【利益】

災害用毛布の販売が期初から伸長したこと、馬具・乗馬用品は震災の影響のあった前年同期と比較して増収となっていること、前第3四半期からの新規事業である100円ショップ向け卸売業は主要顧客の業績が好調であることなどにより生活流通事業全体では増益。



12.セグメント別売上げ割合の推移

開発事業の安定性、コミュニティサービス事業の売上げ拡大が顕著に



開発事業が安定しており、また介護施設やFC店舗の開設など新規事業への展開を積極的に進めているコミュニティサービス事業の売上げ拡大が顕著となっている。また、今期は黒字転換したエンジニアリング事業や生活流通事業が業績回復の傾向を見せている。

13.連結B/S 連結C/F (単位：百万円)

単位：百万円

	H24. 2Q	H23. 2Q
資産合計	116,910	114,464
流動資産	64,267	60,228
固定資産	52,643	54,236
有形固定資産	34,090	34,728
無形固定資産	727	544
投資その他の資産	17,824	18,963
負債合計	47,833	46,438
流動負債	34,584	31,808
固定負債	13,249	14,630
純資産合計	69,077	68,025
株主資本	68,126	66,584
資本金	6,465	6,465
資本剰余金	4,544	4,544
利益剰余金	64,634	62,335
自己株式	△7,517	△6,761
評価・換算差額等	37	639
少数株主持分	912	801
負債・純資産合計	116,910	114,464

単位：百万円

連結キャッシュフロー計算書(要旨)	H24. 2Q	H23. 2Q	増減
営業活動によるキャッシュフロー	2050	1,744	306
投資活動によるキャッシュフロー	-4449	-1,766	-2683
財務活動によるキャッシュフロー	2205	269	1936
トータルキャッシュフロー	-195	274	-469
現金及び現金同等物の 換算差額	-1	27	-28
現金及び現金同等物の 四半期末残高	10101	13,406	-3305

- 営業活動によるキャッシュフロー
棚卸資産の増加の減少(前年同期比)、仕入債務の増加等
- 投資活動によるキャッシュフロー
介護施設や工場新築等の設備投資、定期預金残高の増加等
- 財務活動によるキャッシュフロー
前期の自己株式取得の実施、当期の新テナントからの長期預り敷金等の増加等

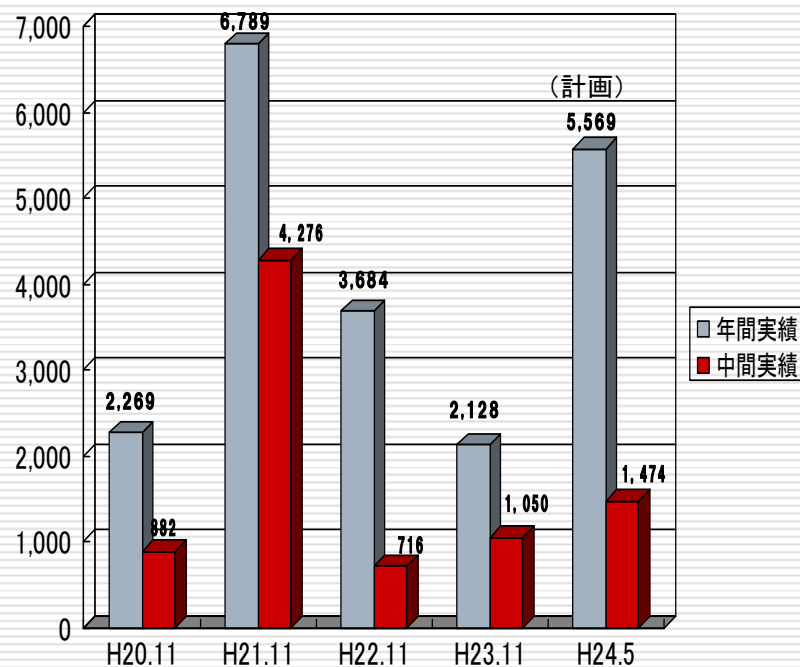
14.自己資本比率・ROA・ROEの推移

	H21. 11実績	H22. 11実績	H23. 11実績	H24. 5実績
自己資本比率	58.9%	60.4%	60.0%	58.3%
ROA (総資産利益率)	0.65%	1.87%	2.78%	—
ROE (自己資本利益率)	1.14%	3.13%	4.64%	—

15.設備投資・減価償却費の推移

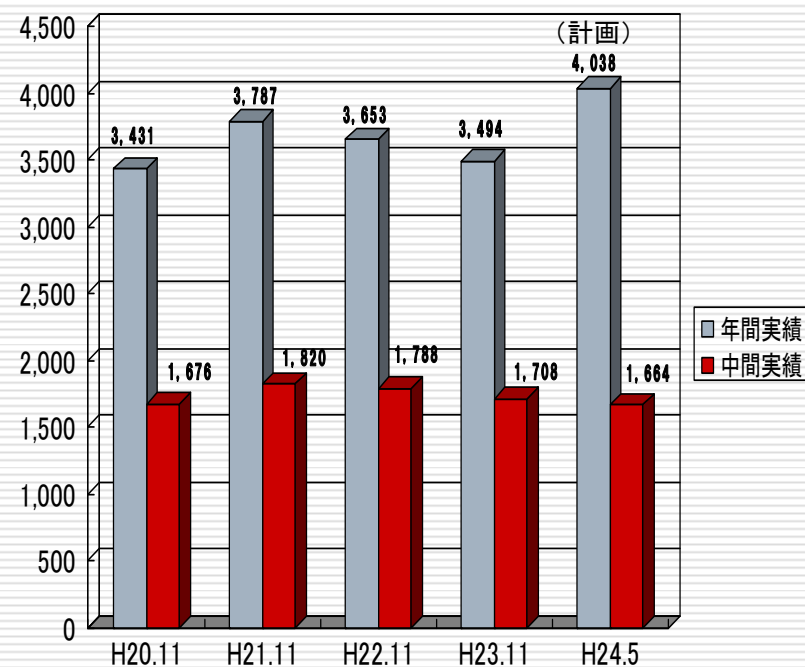
単位:百万円

設備投資の推移



単位:百万円

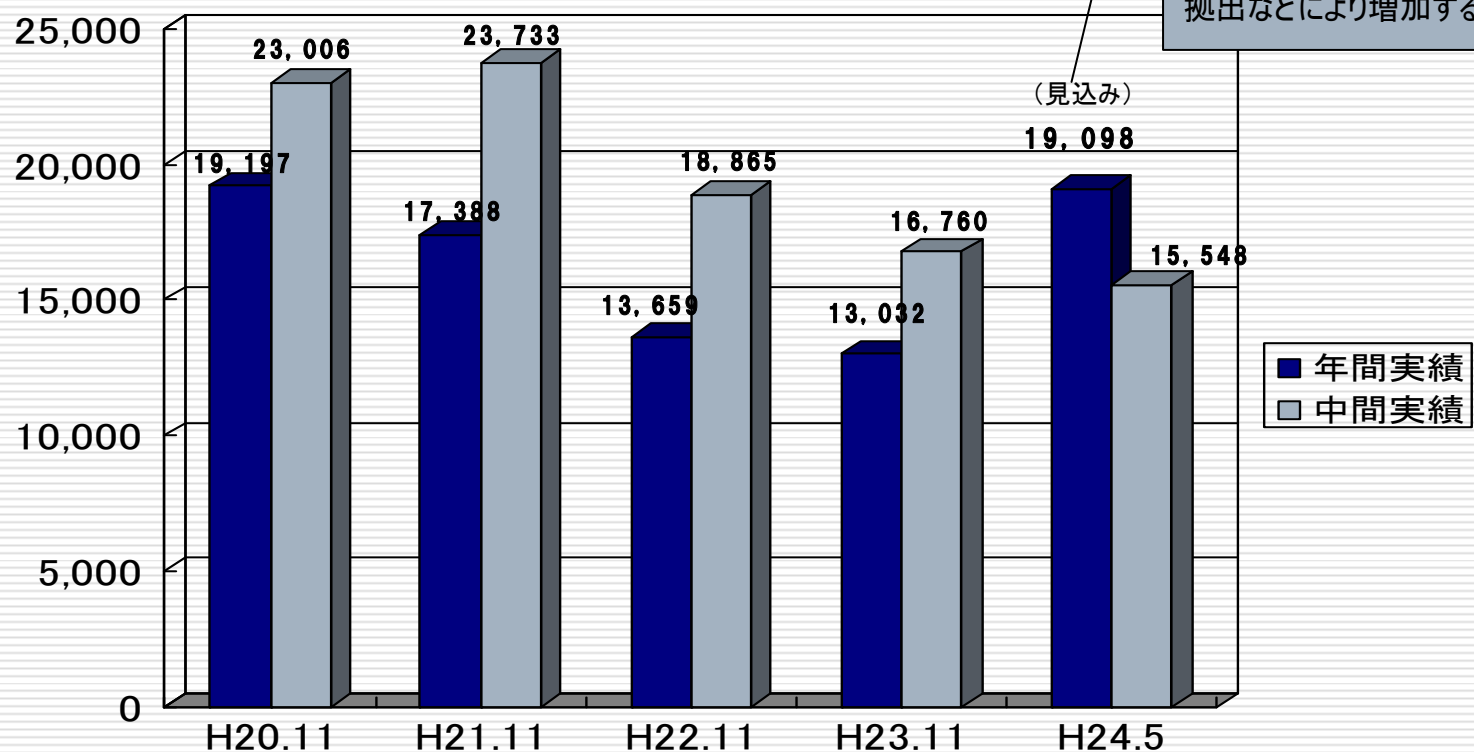
減価償却費の推移



当第2四半期の有形固定資産への投資実績の主なものは、介護施設や倉庫、繊維機械、資材機械等。
今期の設備投資計画は55億円強(衣料16億円、開発24億円、資材3億円、コミュニティ7億円、他5億円)。

16. 連結有利子負債の推移

単位:百万円



在庫の増加とグループ会社工場建設、確定給付年金への一括拠出などにより増加するものです。

II. 第182期(平成24年11月期)計画

17. 連結業績予想

売上高は上方修正を行うが、利益は前回予想と同額に。

	H23. 11期 実績 (単位：百万円)	H24. 11期 予想 (単位：百万円)	増減
			(単位：百万円)
売上高	87,659	96,000(※93,000より修正)	8,341
営業利益	5,056	5,500	444
経常利益	4,942	5,400	458
当期純利益	3,102	3,000	-102

衣料繊維事業、エンジニアリング事業、コミュニティサービス事業の売上げが好調に推移していることに鑑み売上高については上方修正を行うが、衣料繊維事業、資材事業における原料高の影響により収益環境が厳しいため、利益については前回予想のまま据え置く。

18.セグメント別業績予想

(百万円)

注)上記売上げにはセグメント間の売上げを含みます。

セグメント	H23年実績		H24年予想	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
衣料繊維事業	39,908	2,294	42,000	2,300
資材事業	13,640	417	14,066	400
エンジニアリング事業	5,305	5	7,000	300
開発事業	9,452	3,332	11,057	3,200
コミュニティサービス事業	16,434	477	19,000	540
生活流通事業	5,708	46	6,615	107
消却または全社	-2,790	-1,518	-3,738	-1,347
計	87,659	5,056	96,000	5,500

衣料繊維の売上は、上期に一部前倒しとなるが通期でも増収を見込む。コミュニティサービス、エンジニアリング、生活流通についても下期は上期比で減収となるが、上期の上振れが寄与し通期で増収を見込む。資材はOA関連や液晶テレビ向けの下振れ、開発は工事の遅れなどにより、それぞれ予想より若干の下振れを見込む。

利益面については、衣料繊維と資材は原料高の影響からコスト削減などに取り組むものの下振れする見通し。エンジニアリング、生活流通は上期の上振れが寄与し、また開発については不急の修繕費等削減に取り組み、それぞれ増益を見込む。コミュニティサービスについてはほぼ予想通りの見込み。

III. この半期のトピックス

19.ニッケグループ 電力販売事業に参入①



注)この写真はイメージであり、当社施設とは異なります

約30億円を投じて出力9・8メガワットの太陽光発電所(メガソーラー)を整備し、来年3月下旬に稼働予定。電力販売事業に参入し、全量を関西電力に売却する。9月末に閉鎖する「ゴルフ倶楽部土山コース」の一部約15万平方メートル(甲子園球場約4個分)にパネル約4万枚を設置。年間発電量は一般家庭3,000世帯の消費量に相当する9,537メガワット時を想定している。今後も工場、ショッピングセンター、グループ会社社屋の屋根などにも積極的に太陽光パネルを設置することで保有不動産の有効活用を図る。

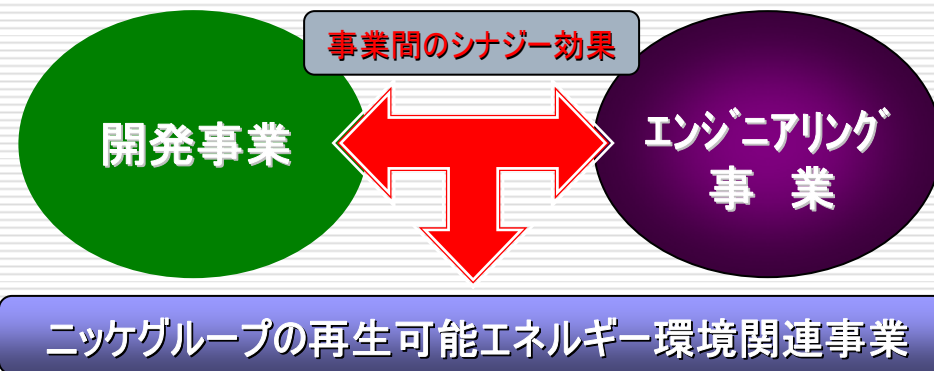


ニッケグループ 電力販売事業に参入②



既存のクラブハウスについては、将来的には近隣の小中学生の見学をはじめとした地域に解放された施設として再利用する予定。

開発事業のノウハウを駆使した保有不動産の有効活用とエンジニアリング事業の開発・設計力による事業間のシナジー効果により、グループ内において再生可能エネルギー関連の環境事業の可能性を追求し、積極展開を目指す方針。



20. ASEAN進出スタート



●衣料繊維事業

中国の人件費上昇などのリスクに対応した「チャイナ・プラスワン」の一環として、マレーシアに生産拠点をもち、ASEAN地域で豊富な事業実績がある南海毛糸紡績(株)をグループに加え、ASEAN進出がスタート。

毛織物生産に必要な優れた人的資源とインフラの総合力を有するマレーシアを拠点にした整理加工まで含めた毛織物生産体制を構築・整備する構想。

日本・中国・ASEANの世界三極生産体制を構築し、トップゾーンからベターゾーンまでニッケのテキスタイルを供給



21.確定給付年金へ追加拠出し退職給付信託を解約

当社は、従業員の福利厚生の一環として、確定給付企業年金制度(規約型)を採用しておりますが、年金制度が想定する運用利率の確保は極めて難しく、積立不足の状態となっており、年金財政の健全化は大きな課題となっていました。

年金制度の安定運用のため、年金資産の運用方法は生保一般勘定を中心とした保守的なものに改めた上で積立不足を一括拠出し、その解消を図ることといたしました。

また、当社は退職給付信託を設定しておりますが、前述の一括拠出により年金資産が退職給付債務に対して超過積立の状況となり、その状況が長期的に継続すると見込まれる部分については解約し、返還を受けることといたしました。

これに伴い、数理計算上の差異(不利差異)を一括償却することとなり、当期は約18億円の特別損失を計上することになりますが、来期以降は、年間約1.5億円程度の営業利益の改善効果が見込まれます。

これらにより今後の当社年金制度におけるリスクは極めて限定的なものとなり、退職給付会計への影響も小さく、安定的な運用が見込まれます。

IV. NN120ビジョンの達成に向けて

22.NN120ビジョンの達成に向けて

**6事業領域・全方位で
限定せず、内向きにならず、外に向かう**

H24年度は第1次中期経営計画3ヵ年の実績をしっかりと検証したうえで**次期中期経営計画（2013（H25）～2015（H27））**を策定します。

次期経営計画においては、ニッケグループの目標であります

「売上高1,000億円、営業利益70億円」

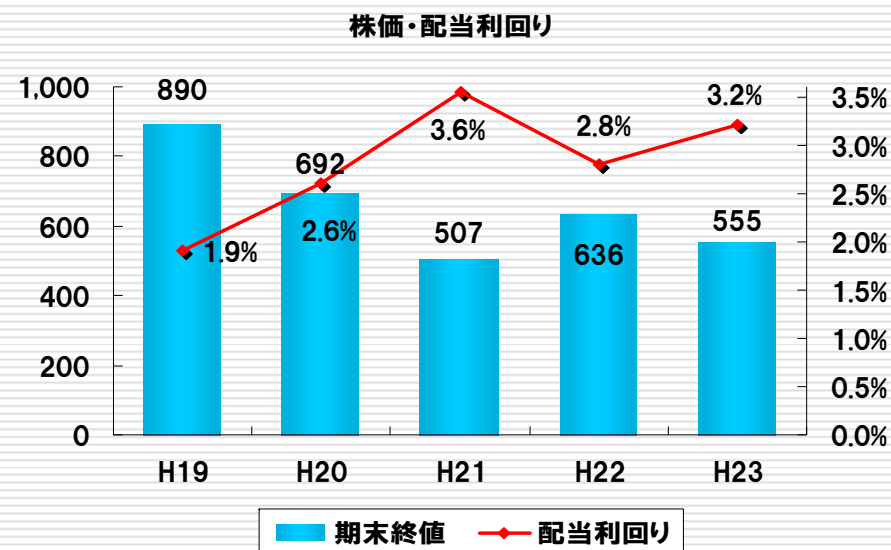
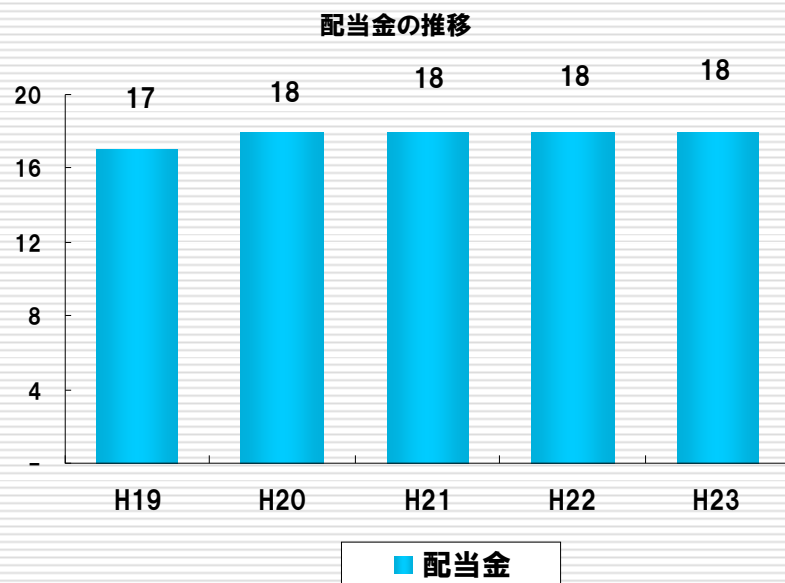
を確実に達成し、更に上を目指せる「新しい事業価値の創出」の具体化に取り組んでまいります。

V. 株主還元方針

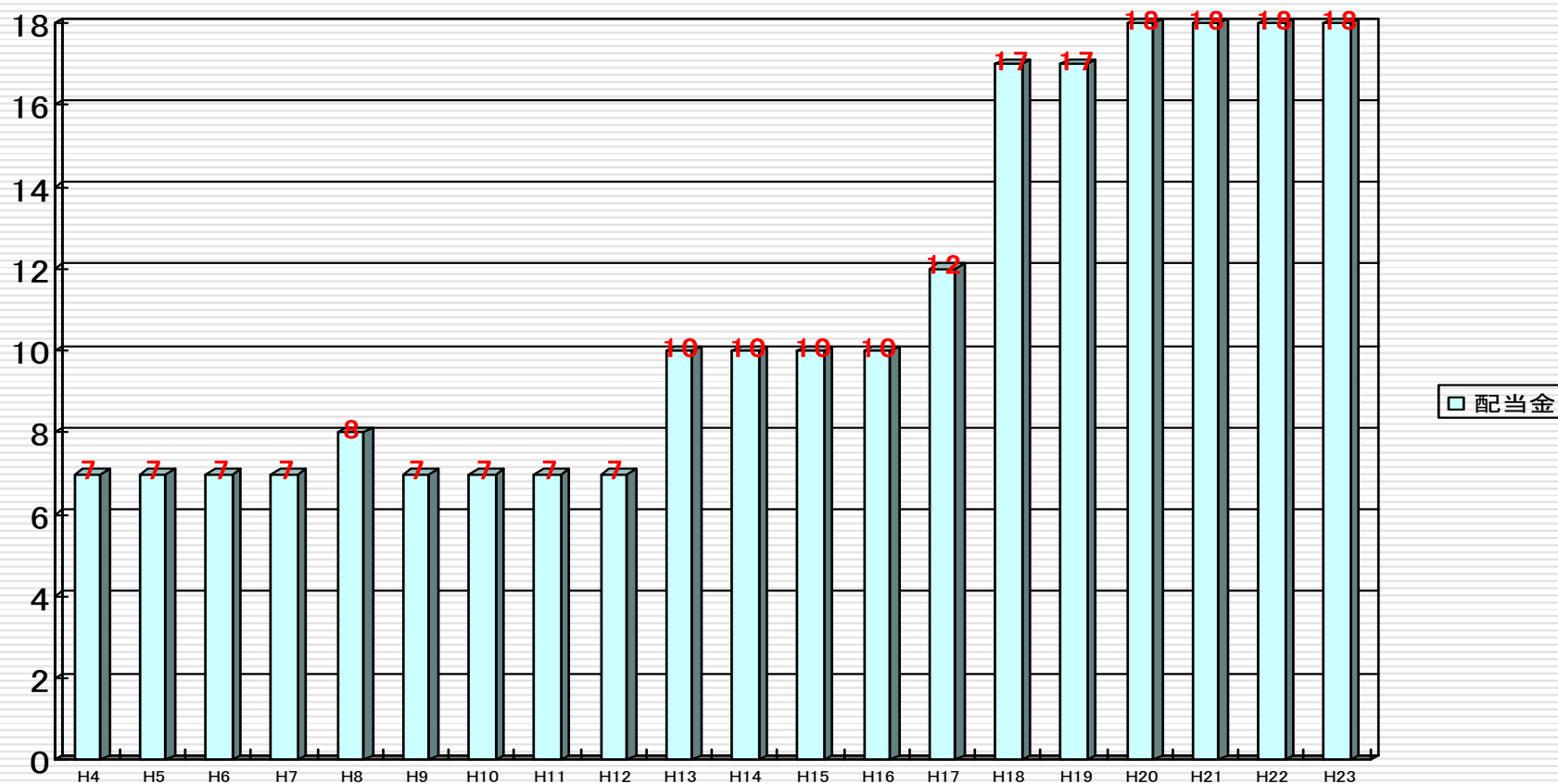
23.株主還元方針

利益水準に応じて持続的に配当水準を引き上げ。

今期についても引き続き年間1株当たり18円を目標



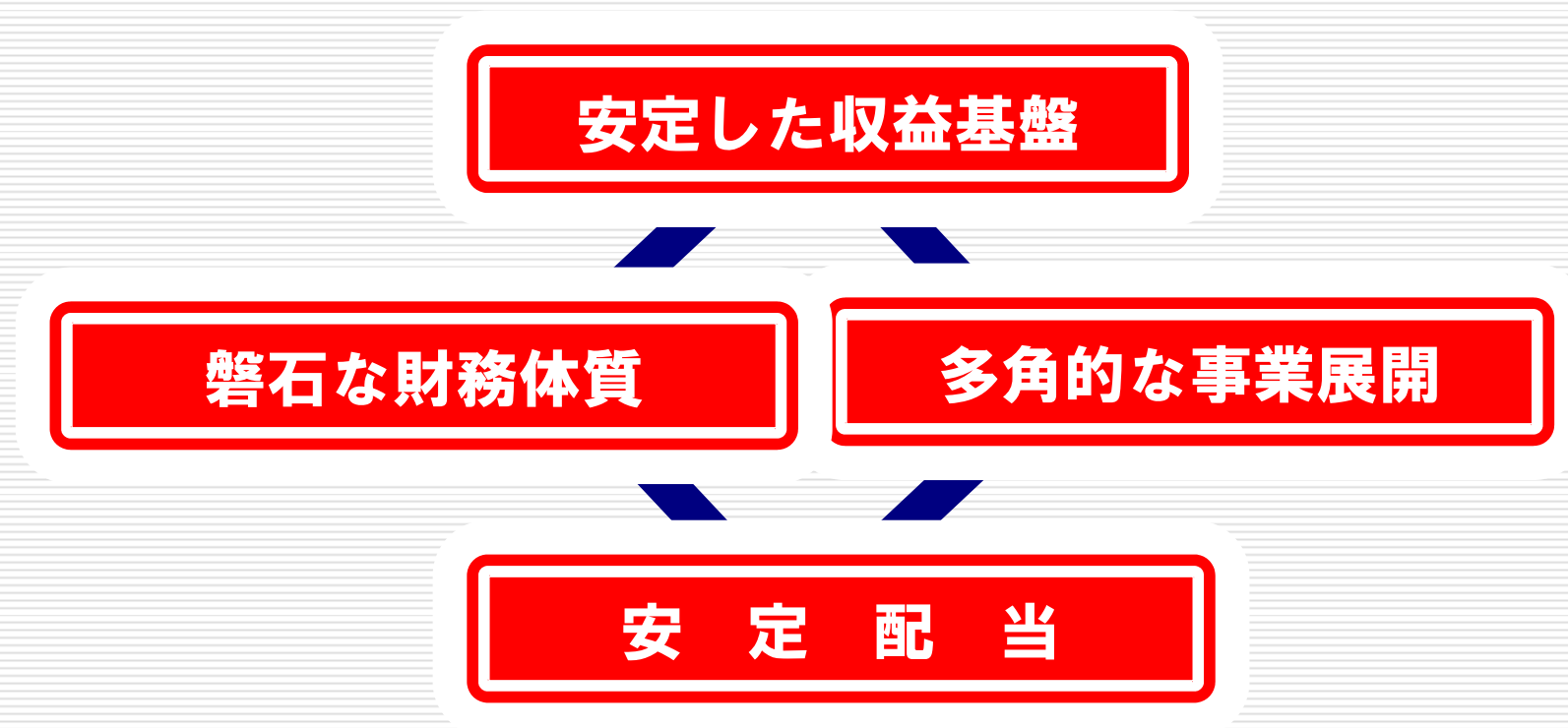
24.過去20年の配当金の推移



※平成8年は100周年記念配当により増配したものの

VI. ニッケグループの強み

25. ニッケグループの魅力と強みについて





ニッケグループの **facebook** がスタートしました。

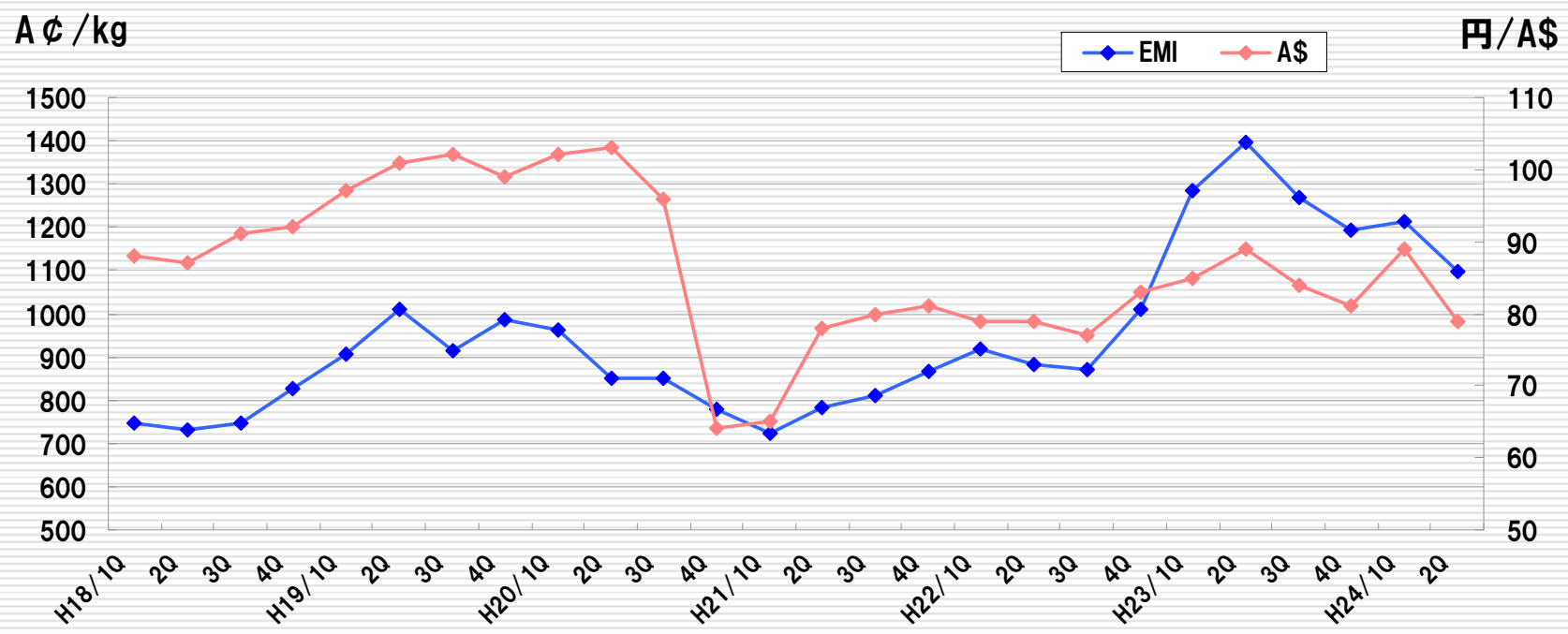
<http://www.facebook.com/nikke.group>



う~るん

●●●ニッケグループのさまざまな表情を発信していきます

(参考) 羊毛相場・為替相場の推移



主要原料である豪州羊毛は昨年、産地国の減産と中国需要の拡大による需給逼迫により豪州羊毛指標のEMIがAU \$ 1,400 台になるなど過去にない水準にまで高騰。当第2四半期は原料高による買控え等からやや弱含みAU \$ 1,000 台で推移。
 為替については、豪ドルがリスク通貨であることからユーロ圏の債務問題を受け不安定な状態で推移し、3月にはAU \$ 90 円近くまで豪ドル高が進むも、現在はAU \$ 80 円前後で推移。

本資料中の業績予想、見通しおよび事業計画についての記述は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。



う～るん